

優秀賞

がんばって泳ぎっぴ

鹿児島県 始良市立加治木小学校四年 中迫 桃香

「ももちゃんがんばれ。もう少し。」
バシャン。あっ。十五メートル泳ぎきるまであと少しだったのに、苦しくなって足がつかなくなってしまった。

「おしかったね。」
とお母さんが、わたしの頭をポンポンと軽くたたいて言った。今年の水泳大会は、くやしい思いだけなのこって終わった。

ほ育園のころからわたしは、水が苦でだった。顔に少しでも水がかかると、ギャーギャーさわいで大泣きしていた。小学校に入るまでにかく水になれようとスイミングに一年間通った。そのおかげでバタ足までできるようになった。ただ今まで十五メートル足をつかずに泳ぎきる事はなかった。

去年はオリンピックに出ていた人のクロールの様子をじっと見て自分なりに研究をしたけど、どうなっているか分からなかった。もういいやとあきらめ

てしまった。そんな気持ちのまま今年の水泳大会に参加してしまったので、失敗するのは当たり前だ。こんなくやしい思いをするのはもうたくさんだ。

そんな時、水泳教室開さいの案内プリントがとどいた。「これだ、これに参加しよう」わたしは、とっさにそう思った。さっそくお母さんにきよかをもらって三日間とつくんでもらおうと決めてた。どうせ水泳教室にかよふのだから目標を大きくもどうと考え、二十五メートル泳げるようになるうと思

った。
夏休み最初の月曜日から、はりきって水泳教室に通った。先生が、

「クロールをする時は、大きく水をかくこと。」
とコツを教えてくださった。わたしは今まで速く泳ごうとひたすらうでをグルグルと回していただけだった。しっかり大きくうでを動かして泳いでみた。

するとどうだろう。一かきごとにグンと前に進む感じがつかめた。
さらに先生が、

「速く進むには、手を一番おくの、水をつかまえる
感じだ。」

と言われた。そのイメージで泳いでみると本当に速く泳げた。まるで泳ぎが得意な人魚になったような気分だ。いっきにわたしに自信がついた。

水泳教室最終日。二十五メートル泳げるかテストをした。今まで先生が教えてくださった事を思い出して泳いだ。

「ゆっくりと大きく、水をつかまえる感じ」何度も頭の中でくり返しじゅもんのようにとなえながら、一生けんめい泳いだ。すると、二十五メートルあっさり泳ぐ事ができた。あはは。泳げた。うれしくなってわたしは、自然と笑顔になった。

明日は、お母さんがプール当番の日だ。二十五メートル泳いで、びっくりさせてやろう。そう思うと、ますますにやにやが止まらない。明日、お母さんのおどろく顔が楽しみだ。

